



# みずみどり

1999年7月15日 第13号

発行：いたばし水と緑の会 事務局

年会費 2,000円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会  
ホームページ <http://www1.odn.ne.jp/~caa98300/itabashi.html>

〒173-8501 板橋区板橋2-66-1 TEL 03-3579-2598

板橋区環境保全課内 FAX 03-3579-2589

## 市民参加で板橋区の動植物調査をしませんか

### ボランティア募集



昭和20年後半松月院の森でフクロウがいないいた。

徳丸たんぼにはホタルがいた。

シジミや野草など食卓に上った自然の恵み。

自然の中での遊び。畑の害虫。

ぼつんとある街灯に集まったおびただしい虫。

いいこともやっかいなことも含めて、

関わりがあった板橋の自然。

今彼らはどこかでひっそり生きている？それとも・・・

動植物調査にくわしい人のネットワークをつくり、協働により板橋区の今の自然を調査します。板橋区環境保全課との共催事業ですが、調査ととりまとめはボランティアで行い、成果物は調査員全員のものとなります。

#### ◎動植物調査

魚、昆虫、水生生物、植物にくわしい人、一緒に今の板橋区の自然を調査しませんか。

第1回は荒川生物生態園で調査し、来年度には地域を広げて実施したいと考えています。

事前打合せ

日時：7月29日（木）19時から20時30分

場所：産文ホール4階予備室

#### ◎定点モニター募集

興味がある人、詳しくないけど好きな人も参加できる場として、家の近くなどで指標になる生き物の定点調査があります。定点調査モニターのための観察会と指標生物の見分け方講習会を開きます。

日時：8月20日（金）（予定）

#### ◎作文募集「昔の自然の記録」

失われてしまった風景や自然を記録に残します。オオムラサキ、ホタル、カブトムシ、タガメなど動植物の記録や思い出を書いてお送り下さい。

締め切り：10月末日

送付先：173-8501 板橋区役所環境保全課水環境係

申込み・問合わせ：板橋区環境保全課 坂本

# 荒川自然回復団いよいよ動く かがみりょう

## 助成金 100 万円つきました

春に河川環境管理財団に申請していた「笹目橋緑地の市民参加による自然回復事業」に減額されましたが、100 万円助成金が出ることになりました。使いみちは申請内容に準じて行うこととなります。そこで右のような予算案を作成しました。すでに調査・観察会は始まっていますが、意見など頂いて、8月の定例会で了承していただきたいと思います。

### 予算案

単位：万円

項目	種目	規格	数量	金額
調査・観察会	講師・指導者謝礼	6回、取りまとめも	12人	12
	調査道具購入費	投網・捕虫網、他	1式	4
帰化植物等の管理	工具代	エンジン式草刈機	2台	5
講座の開催	資料等作成費	レジュメスライド	1式	5
	講師謝礼		4人	4
工事への市民参加	工事指導者謝礼		5人	10
	工事道具購入・借用	ネコ車、スコップ他	1式	10
看板制作	看板制作・設置	立て札・案内板	4基+1基	20
活動記録集作成	記録・編集費		1式	15
	印刷・製本		1式	15
合計				100

## 管理方針を決めました

5月27日の建設省との検討会で、管理方針を決めて、工事後の維持管理を自然回復団でやってくれるなら、今年度工事をすると約束を頂きました！維持管理費も出ませんし、場所は広いですが、助成金を利用したり、建設省に協力（工具その他）してもらったり、参加を促していきながら出来ると思います。きっと楽しい作業になるでしょうし、参加者も区内外から増えると思います。

### 市民参加による管理の方針（建設省に提出）

ここでは荒川に本来あったであろう河辺の池、湿地、干潟などを取り戻し、そこに自生または生息していた植物や動物を呼び戻すことをめざしていく。

池、湿地などの整備後は、現存する植物や動物、風、水の流れ、動物による種子、卵などの運搬による自然の遷移に委ねることを基本とする。

しかし在来種の生息にとって問題のある帰化植物または帰化動物、園芸種、改良種などについてはなるべく除去していくものとする。

加えてそれらのための維持管理、観察などを行っていくために必要な場所、施設についての整備をしていく、または行政に要望していくものとする。

### 管理の範囲

- ・観察会
- ・帰化植物などの植生管理
- ・放流される外来魚、鯉などの不適正な動物の管理
- ・池、水路などの軽微な補修や浚渫
- ・ごみの清掃

### 建設省への要望事項

- ・維持管理に必要な工事道具を保管する、または着替えをするなどの仮設小屋設置をお願いします

- ・ 工事道具を洗う、手足を洗うなどの水道設備整備をお願いします
- ・ 湿地保全のために大規模な補修・浚渫などの必要生じた場合は工事をお願いします
- ・ クリーンアップなどで集積したゴミ（散乱ゴミや粗大ゴミ）は処分をお願いします。
- ・ 自然地の維持管理に対する費用・報酬を、企画・呼びかけなどを担当する市民団体等へ支払う形を、今後検討されるようお願いします。

## 観察会・調査の内容

目的：工事前の笹目橋緑地にどんな自然があったのか調べておくことによって、貴重な動植物を保全するとともに、工事後どのように自然が回復したのかがわかる。そのため調査である。

方針：1996年に埼玉県生態系保護協会により植生図が作成されている。この植生図をベースとして、植物群落内の群集、貴重種、及び動物の生息を調査し、地図上に落とししていく。

（概況調査）

また現況植生の基本構成を調べ、工事後の基本構成と比較するために、野球場、水路、池、草地を含む植生調査を行う。（ベルトランゼクト）

進め方：毎月1回の観察・調査会と補足調査を数回10月まで行う。講師、指導者として毎回2人から4人、責任をもって、これに当たる。

会員または関連団体などから植物、昆虫、調査方法などに詳しい方をお願いします。

我こそはという方は連絡ください。

もちろん多勢で楽しく行いたいと思います

し、管理などのこともありますからみんなに詳しくなっていただきたいと思います。

下の写真は7月の調査・観察会の様子です。



## 提言！

環境保全課の坂本さんには事務局として今まで、たいへん会の活動（特に赤塚の森ボランティア）に協力してきていただきました。感謝しています。

ただし行政職員であるため、時折市民活動のあり方、活動の内容に行政として責任とれないと感じる時、市民活動として行おうとする工事の中止を、会員に告げる（大門の湿地回復）、または建設省に申し入れる（笹目橋緑地の自然回復工事）など、活動している市民としては納得できないことがあります。

市民がより自由に活動するために、事務局は市民側に置かなければならないかと思えます。環境保全課としても負担が大きいのではと思いますが、みなさんはどう考えますか。

## 見えてきた！緑の未来

小松 容子

4月29日の総会は、ワークショップで板橋の自然回復の将来像を話し合いました。26名が5班に分かれて活発に意見交換が行われました。テーマは「夢」でしたが、どのグループもけっこう現実的なものが多かった気がします。

「ここをこんな風にしたい」「あそこだったら、こんなことが出来る」などと、板橋全体をイメージしてというより、日頃それぞれ思い描いているところがあったようです。

1グループ（三船、高野、番匠、金谷亨、金谷つや子、猪鼻）

- ・高島平から赤塚公園に向かって左側の赤塚公園内のわき水をなんとかしたい（たんぼにしたい）
- ・石神井川・前谷津川なども自然回復の拠点として活動できたらいいと思う。
- ・各家庭の庭でも、草を刈らなければ虫や鳥がやってくる
- ・都や区の遊休地を一時的にでも自然地にしたい

2グループ（中澤、加々見、小屋、真田）

- ・公園の自然地化を進めたい
- ・自然地のネットワーク化していきたい

3グループ（木村、下田、渡瀬、平田）

- ・地域と密着した活動として公園いじりをさせてほしい
- ・緑の回廊、水の循環を考える

4グループ（鈴木、坂本、眞崎、新保、山下、島井）

近い目標

- ・会員の充実（運営、方針を明確にする）
- ・現在の自然の姿（状況）を明確にしておく
- ・事務所をつくる
- ・現在行っていることを持続させていく
- ・身近で子供が環境教育を体験できるような活動を行う

遠い目標

- ・板橋区の自然の将来像を見据えた自然回復の方策を模索していく
- 5グループ（矢田、大西、香取、釣巻、小松）
- ・活動を活発にしていくには資金が必要なので、補助金や助成金の申請を行う
- ・小豆沢グラウンド北側斜面（業師の泉があるところ）の手入れについて、周辺の住民の方々と興味のある人がいると活動ができるのではないか
- ・荒川と赤塚の自然回復を結びつけていきたい
- ・大門の池をどうするか

時間の都合で、出された意見をもとに話し合うことはできませんでした。

板橋区のいろいろな地域で自然回復活動が進んでいくような、ボランティア同士の結びつきや活動の発信地として、いたばし水と緑の会が発展できる基本的な方向や方針について、意見を出し合っていきましょう。会報にも、活発な意見をお寄せ下さい。

なお、会長および赤塚、荒川のリーダーは前任者がそのまま承認されました。

## 保健所窓口からみた板橋区の虫・むし・ムシ

保健所生活衛生課 三井 公夫

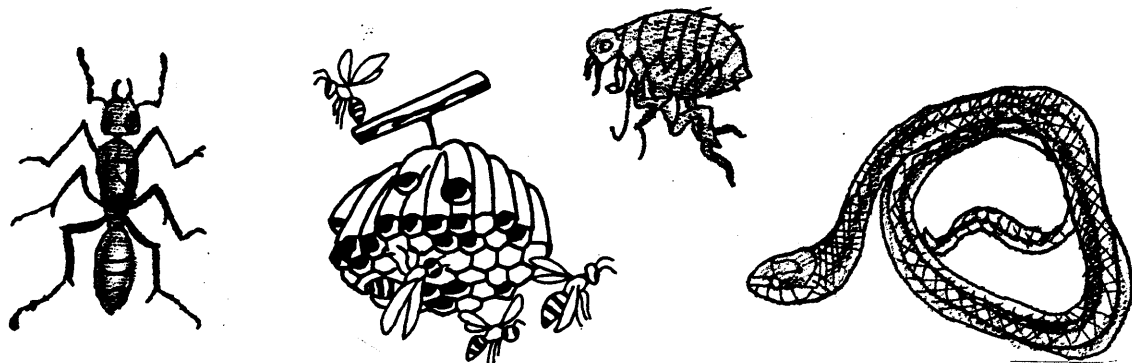
日本では“むし”に関して微妙なつきあいがあったようだ。「むしがいい」、「むしが知らせる」等々の表現にみられるよう、心や感情を左右するような“なにが”や、「獅子心中の虫」というような悪さをするもの、得体の知れない何かを総じて“むし”と表現してきたのだろう。しかし、そうした“むし”に対する受け止め方も、最近では一方的に人間の生活にとって悪いものと断じられているように思われる。

保健所の窓口を持ち込まれる“むし”に関する苦情や相談をみると、昆虫の類では、蚤や虱や蚊、蟻等の古典的な衛生害虫を筆頭にして蜂、蟻、蛾の仲間や蜘蛛類と種々雑多である。昆虫や蜘蛛類以外にも、虫偏のつく蛇、蝙蝠と幅が広い。

そうした“むし”にも世に習い栄枯盛衰がある。よくぞ今でも生きていたと思うようなアズキゾウムシ、ナンキンムシ、チビタケナガシクワイや、最近では持ち込まれることも少ないアシダカグモ。一方、家屋内昆虫では新参者のヒメマキムシやイエヒメアリも段々と勢力を拡大してくるのでは、と心配である。また、最近ではセイヨウミツバチに追いやられていたニホ

ンミツバチが勢力を盛り返しての分封(楽われ)に大騒ぎと…。なかでもアリガタバチ、ツメダニ、タカラダニの類は全国的に大発生し、仲間内でも様々な情報交換が行われた。なお、30年ほど前になるが台風で荒川上流から流れ着いたものと思われるマムシ。光が丘の開発で住処を荒らされ人家の側溝に逃げ込んだヤマカガシ。緑と水の板橋区らしく、アオダイショウはかなり頻繁にみられる。

確かにみてくれの悪いグロテスクな形態や、人を刺したり、食品に害を与える“むし”もいるが、本来はヒツソリと生きていた“むし”がほとんどで、生物の世界のバランスを崩し、異常発生させる環境の変化こそが問われるのではないのだろうか。“むし”に罪は無い。むしる生態系に大きな歪みを加えつづけてきた都市開発や住宅構造の変化、生き物に接触することなく育つ環境、過度な清潔指向にこそ目をむけるべきだろう。どんな“むし”にも自然界での役割があり、駆除の対象としてではなく、お互いに生活が脅かされないようにできないものだろうか、と思う日々である。



# 荒川実験池—1年間の定期調査から

木村 延明 番匠 広

水と緑の会では、平成9年9月、平成10年4月、5月に3つの実験池を作りました。私たちは、3つの池について水質や水深などの状況を、1年間を通して毎月1回定期的に調査をしました。

### <水質>

CODパックテストで30~50mg/lあり、荒川の水質が5~15mg/l程度であるのと比較するとかなり高い数値になっています。

### <水深の変化>

調査を始めた平成10年6月から10月までは20~30cm程度の水深がありましたが、雨などにより周りの土が崩れ、次第に池が埋まりました。雨の少ない11月以降は干上がってしまい、雨が続いた後に水がたまるといった程度になっています。

### <台風15号の後>

平成10年9月の台風15号では、河川敷が完全に冠水し、池も水没し、土砂の埋まりが大きいようでした。河川敷に自然を作り、維持していくのも難しいことだと思いました。

### <池の変化>

3つの池それぞれに特徴がみられました。

1号池は水が出るまで掘った一番深い池で、約1.4mあります。1号池が冬に干上がったとき、サカマキガイ約50個と、無数のザリガニの巣穴があり、生物の数が多いように見えました。

2号池は池の底に粘土をはり、水路とつながっています。深く掘っていないため水深は浅いものの、他の池が干上がった12月でもこの池だけ5cmの水が残っていました。しかし、1月に干上がった後、池底はひび割れて他の池よりよくない状態でした。雨が続いた後の平成11年4月には、水路にいたトウキョウダルマガエルが池に来てないいました。

3号池は浅く素堀りのままで、生物の数としては少なく、これと言って目立つものがないような気がしました。

### <備考>

①調査日 平成10年6/27、7/18、8/15、9/19、10/25、11/21、12/23、平成11年1/15、2/28、3/13、5/1、5/15、6/6

②調査項目 気温・水温・COD・pH・アンモニア・硝酸性窒素・水の色・濁り・臭気・水深・池の状況・生物

	COD (mg/l)				水深 (cm)		
	池①	池②	池③	荒川	①	②	③
H10.6	30	40	70		50	20	
7	10	30	30	30	30	20	20
8	30	80	30	50	30	15	15
9	10<	10<	10<	9	80	30	60
10	10<	10<	10<	4	25	20	50
11	—	35	—	7	0	8	0
12	—	60	—	15	0	5	0
H11.1	—	—	—	15	0	0	0
2	—	—	—	12	0	0	0
3	—	—	—	15	0	0	0
4	20	35	10	7	30	20	25
5	50	35	—	5	5	8	0
6	—	—	—	35	0	0	0

## 赤塚美術館前の自然池 — 出来たての池に何が来た!

梅祭りやら、区役所の都合などやらで、のどかな春の日にバタバタと穴が掘られ、水が溜り、そして生物たちがやってきました、連れてこられたり、喜んだり、頭を抱えたり、まー、とにかく始まりました。

### 水が溜まる前に!

3月19日、出鼻をくじく朝からの雨、粘土貼り作業は中止、数日前に見つけたクサボケの花を写すため、現地へ出かけて見ると坂本さん他何人が集まっている。

次の日はどうか作業開始。検討会に参加したメンバー以外の方も多く作業がはかどる。ボーイスカウトの奮闘のおかげで年寄り連はしばしの息抜き。午後はまた雨、人間以外は何も来なかった。

3月28日、前回の残りと水路の粘土貼り。セミの幼虫が数匹見つかる。案外地表近くにいるものだ、などと感心したが種を確認するのを忘れた。

昼休み中、静かになると早速キジバトがやってきた。掘り返した土の上でえさ探し、池に来て皆に見られた最初の動物、ということになった。赤茶色の少し大きめの鳥が来た、モズだ。2羽いる、つがいらしい。地面に出てきた虫をついばみ、金網の上にとまっているもう一羽(色合いがすこし違う、雌のようだ)に運んでいる。雌は羽をばたつかせて餌を受け取っている。求愛給餌らしい、双眼鏡がないのが残念。

最後にガマ、フトイ、サンカクイ、カンガレイ、ミツガシワ、セリなど水草(これが後で問題になる)を植える。水路に湧水が流れ、しばらくして池までとどく。3月末の会計年度内に池らしくなってくれるようだ。

### 自然池の最初の住人は?

4月10日、立入り防止のため周りにノイバラを植える。水は濁っているが、予想より早く池らしくなった。と喜んでいる内に、カメが浮かんでいる、ニシキゴイが泳いでいる、わけのわからん魚がいる、ザリガニだらけだ、とあまりうれしくない情報が届き出した。

5月16日、たしかにニシキゴイやカメ、ブラックバスらしき魚、ヒメダカ、大きなカエル(後にウシガエルと判明)、ザリガニはあちこちにいる。魚は多分歩いて来ない。誰かが放したんだろう。どうしよう、釣ってみよう。で私が挑戦、完敗を食らう。

検討の結果、かいぼりをして再スタート、ついでに池と水路の補修をしようと思った。

### かいぼりの結果は?

6月12日、呼びかけに応じたたくさんの人が集まってくれた。前日に仕掛けたカニかご6個(私の友人から借りたもの)を、まず引き上げる。大型のザリガニが結構入っている。餌はさきいかを使用、このかごは今後使えそうだ。

ポンプで水を抜くにつれ、魚が見えてくる。子供たちが中に入り魚を網ですくう。ニシキゴイ、キンギョ、フナ、ブラックバス、クチボソ(モツゴ)、ヨシノボリと実に色々入っている。溜池で釣った魚をここに放したようだ。

アメリカザリガニは大小混ぜて864匹、去年の11月水路で捕まえたのは、小さいやつばかり150匹ぐらい。大きいのはすでに冬眠していたのだろう。定期的にザリガニを減らす事は欠かせないようだ。最後になりましたが水路、池の補修などをやって頂いた池田園さん、ありがとうございました。(無償でやってくれたとの事です)

## 徳丸ケ原公園内の流れのある池に思う

高島平 大西 優

私が高島平に移住して来たのは昭和47年で、まだ周りは空地が多数ありました。徳丸ケ原野球場では色々な団体の主催する野球大会にも参加したりしました。

又公園の球場の周りにも広場等が現在より多く、野球が好きな我が子とよくキャチボールしたり走り回ったものでした。

今から数年前(平成元年)遊んでいた広場が柵で囲われて工事が始まり、出来あがったのが現在の流れる池でした。

この池は、遊び方に規制の多い”こどもの池(プール)”と違って、子供達が自由に好きな水遊びができるのかと思いました。

出来上がったとき、その池の淵に「池の中に入るべからず」の立札が立てられていました。

池の中に植えた草花の根が傷むとの論旨の内容で、自然の中の川や沢で自由に入り込んで遊んだ私には考えられない事でした。

確かに、都会の小さな公園の中の小さな自然池では、大自然に人が足を踏みこんだときと同じような回復力が無いので、止む得ない処置と思いました。

その甲斐があつてか2年目から数年は池の中に入る人も少なく、色々な草花が池全体に咲き繁り目を楽しませてくれました。

その後、人が入り込むことさえ制限した池が、冬になると水が無くなり(止められて)ここ数年のうちに様変わりして来ました。

又夏場も水量が少なく中央のコンクリート部

分しか流れがありません。

そんな中、板橋区の自然回復ボランティア活動講座で「徳丸ケ原公園の自然回復」が広報に載り講座に参加致しました。

参加した頃は自然回復の意義、必要性や重要性もよくわかりませんでした。

講座に参加して板橋区内の公園、学校のピオトープ、荒川河川敷等を見て歩いているうちに自分達が幼少の頃の親しんだ自然の水、土、生き物が変って来ていることに気が付くようになりました。

「徳丸ケ原公園にも自然池を」、講座を受けている人達の間で、この池をこのままの状態ではひどいので回復しようと言う話が出て来ました。

今の流れる池が当初はどのような目的で作られたのか知りたいと言うことで、環境保全課の取り計らいで、区のみどり公園課の方達にお会い出来ました。

公園課の方のお話では、池が計画された時、水源の確保と、もう一つの目的として東京都の新河岸下水処理場の2次処理水利用の用途開拓があり、そのため新河岸川を越えて公園の近くまで配管も布設されているようです。

2次処理水は幾らか色が付いているのと、多少臭気がある(新河岸川の川の水に比べると数段きれいだが)ので、池に子供が入ったりするのは困るとの処理場からの要請があり、2次処理水の利用を諦め、現在は工業用水を利用していると言うことです。



工業用水は水道水に比べ価格は安いのですが、池の底から地中に水漏れすることに関係なく用水の使用量に応じて、上水と同じ下水道料費を支払う必要があるため経費がかさんでしまうとの事です。

それで夏期の昼間だけ中央のコンクリートの部分に水を流すために、子供達が水を求め水路の周りで遊ぶので、水が無くなった池全体が踏み固められきています。

そのため水草が育っていたころとは様子はすっかり変わってしまったような気がします。草花の種類も少なくなり生命力の強い種が群生しています。

当時をしのぶ”池に入るべからず”や草化の種類を説明した立札が何かもの悲しさをさそっています。草花や生き物を、そうして自然を愛する一区民として、ぜひ作られた当初の形が復活されることを願うものです。

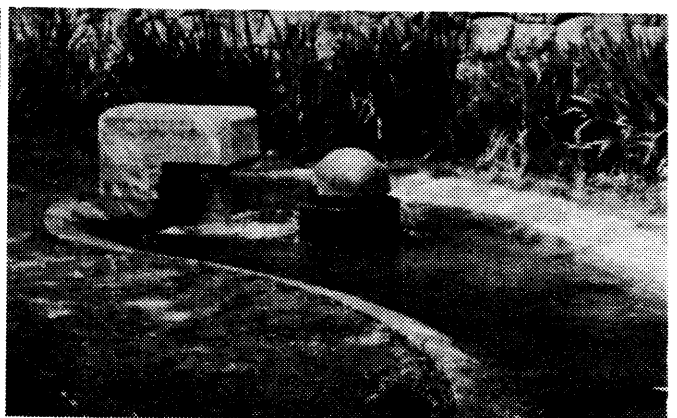
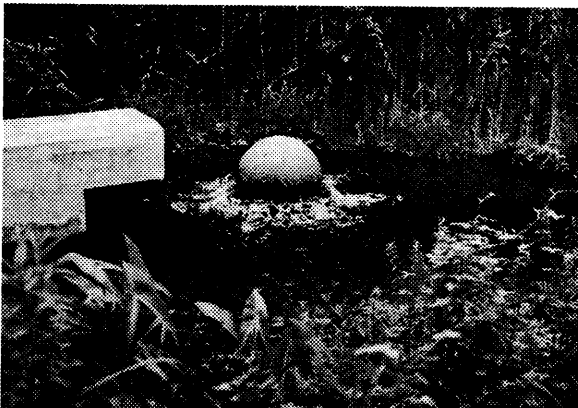
世の中のバブルが弾けた後遺症で区の財政も苦しいでしょうが、一度は生物を生かそうと試みた所です。池の底の水漏れを防ぐ処置と、水源を確保すれば作られた時の状態にもどすことも可能なはずで。

工業用水で維持費用がかかるなら、立札をたて水質の説明をして、池に人が入るのを制限すれば、処理場から出る2次処理水の利用の可能性も出て来るのではないだろうか。

もし駄目ならば現在のポンプ場の下あたりに地震時の水の確保を兼ね井戸を掘るなどして水源を確保できないものだろうか。

水草は一年中水を必要とします。又水に住みついた生きものは常に水がなければ生きていきません。水の中の生きものはまさか冬期になると水が無くなるとは思いません。大きな費用をかけ設けた池であり、又公園の水辺は憩いに来た人達の楽しみであり、そうしてこれらを眺めながら親が子供に水辺の色々な生きものの話を聞かせ、生きものの命の大切さや、興味をもたせることが出来るのではないだろうか。

次の徳丸が原公園自然回復検討会は  
7月22日(木)午後6時30分～8時半  
板橋区役所6階602会議室です(地下鉄出口そば夜間出入口より入ります)。  
関心のある方はご参加下さい。



'99年5月9日

## 「竹グループ」活動開始！

兼松 方彦

7月3日、三園小学校の地域活動室をお借りして、竹グループの活動が始まりました。

集まったメンバーは10人。まずは、赤塚公園での竹調達から。ヤブ蚊の総攻撃に曝されながら、今年の細めの若竹を1本切り出しました。持って運べるように短めに切り、三園小学校に移動、早速竹の加工(?)に入りました。(今年の竹なのに、幹の周りはスス(?)で真っ黒でした。大気汚染、排気ガスの影響でしょうか。)

道具はタケノコ(竹鋸)、小刀、ナタです。銘々が思い思いに切ったり、削ったり、割ったり、丸めたり、折ったり。鮎の塩焼きが似合いそうな籠、グイ飲み、ジョッキ、たくさん作品(?)が出来上がりましたが、一番多かったのは竹くずのような気が・・・。

竹グループでは、「竹林の管理」と管理のために切った竹を利用して「暮らしに役立つモノを自分達の手で作っていく」ことをしたいと考えています。メンバーの中には子供の頃少しやったことがある人もいますが、道具も知識も技術的

にも素人集団です。(三園小学校の校長先生は玄人のようです。)

しかし、夢は持っています。例えば、竹箒や熊手を沢山作って小学校で使ってもらう。ざるや籠を自由に編めるようになる。自分で道具を作りたい人に、作り方と材料を提供して上げる。みんなの技術が上達したら、技術指導に区内の小学校をまわる、などなど…。

竹を切る時期は10～11月頃が良いとのこと、それまではいろいろ試してみて、少しずつ目標と活動計画を立てて行こうということになりました。

今回は、8月7日(土)午後1:30美術館前集合です。この日は、区立竹の子公園の竹林の様子を観察(いろいろな種類の竹が植えられています)し、この公園の管理や利用方法と、グループの活動の進め方などを話し合う予定です。興味のある方はぜひご参加もしくはご一報をください。

連絡先：猪鼻(3933)8269

## わたしの部屋は昆虫園

江戸 きよみ

7月4日、赤塚で柵づくりをして帰ると、飼っていたアゲハが羽化していた。このアゲハは幼虫の時部屋の中で行方不明になり、5日ほどたつて見つかったときは弱っていて頭部が黒っぽくなっていた。すぐに手のひらで水を与えるとかくさん飲み、葉も食べて元気になった幼虫だったので、それが無事チヨウになれて特別うれしい。

草取りをやめた草ぼうぼうの庭で、その日は花の咲いた三つ葉に、なんとキアゲハの幼虫が・・・。やった!とひとりで大喜び。さらにニワフメにモモスズメガの幼虫まで見つけ、2匹ともまた部屋で飼うことにして、宿泊山行をキャンセル。

この夏  
またまた  
部屋の中は  
昆虫園に。



キアゲハのさなぎ

## いろいろなお知らせ

### その1 東京都の民間団体環境保全活動助成金が受けられるようになりました

会報「みず・みどり」発行に必要な通信費・事務費、赤塚の森ボランティアに必要な資材や道具購入費、総会のときの講師謝礼など、運営に必要な事業費の3分の1が補助されます。交付金は6,7000円です。

### その2 ボランティア保険に入っています

大きなイベントでは行事保険に加入し万一の事故に備えています。1日限りの保険です。

会の活動が多様になって、それぞれのプロジェクトがそれぞれの活動を進めたり、準備作業をするということも増えてきましたので、活動に参加されたことのある32人について年間のボランティア保険に加入しました(12年3月まで)。

この保険はボランティア活動中の偶然な事故により、ボランティア自身がケガをした場合の損害保険と、他人の身体や財物に損害を与え法律上の賠償責任を負った場合の賠償責任保険です。対象は、

- ・社会に貢献する目的で取り組まれている活動
- ・無償の活動(交通費等費用弁償程度は無償の範囲)
- ・活動のための学習会、会議等を含む
- ・往復途上を含む

保険加入対象者にはカードを同封します。なお、すでに保険に加入しているリーダーやニリンソウを保存する会会員は除外しています。「これから参加しようと思っている」「私も保険に加入してほしい」方は事務局にご連絡下さい。

### 赤塚公園城址斜面林の保護柵づくり

6月27日、7月4日で約40mにわたって保護柵をつくりました。きちんとしたものをという条件だったので、120mの丸太杭40本を50cm程度打ち込み、杭と杭の間には公園で出た剪定枝(滝川・井上・田口さんが枝をそろえて用意してくださったもの)を打ち込みました。さらに、安全のため、とがった枝はノコギリ等で落としました。秋頃に竹をわたして最終的にできあがります。私たちが手を加えたも

のなので、きちんと維持していきたいと思います。趣旨を書いた看板も設置します。



## 活動のお知らせ

定例会(毎月第一木曜日)8月5日、9月2日、6時30分から産文ホール第4会議室。どなたでも

### 荒川自然回復団

#### ●笹目橋緑地の生き物調査

市民による自然回復予定地の植物、動物について観察・調査します。

日時：7/18(追加)、8/1、9/5、10/3

(雨天日は次週へ繰り延べ)

8/1は夕方、「荒川を食べる」は水棲動物の天敵ザリガニ料理、魚等を食べます。

集合：西高島平駅9：45、現地10：00

持ち物：弁当、飲み物、双眼鏡、ルパ、三角紙、虫かご、図鑑、網、ビニールバケツ等

8/1(キャンプ参加者は)食器、タオルケット、着替え、タオル、洗面用具など

参加費：無料、8/1の夜の参加費は500円＋飲み物代

連絡先：かがみ 5375-6404

(当日は090-1771-7530)

#### ●荒川の自然回復ボランティア講座

10月～12月市民参加の工事に先駆けて、荒川の自然回復の状況や今後の取り組みについての講座を開催し、笹目橋緑地の活動を知ってもらうとともに、ボランティア参加者を増やしたいと思えます。(企画者募集)

#### ●自然回復シンポジウム

今年環境会議は9月がこども版、1月が大人版となるので、1月の会議で板橋区の自然回復についてのシンポジウムやったらどうかと思います。ご意見を!

●回復団で打ち合わせること、これから多くなります。世話人、世話人でない方も、定例会へもって来て下さい、お願いします。

### 赤塚の森ボランティア

#### ●竹グループ(毎月第一土曜日午後)

◎8月7日(土)1時30分美術館前集合。

タケノコ公園で竹の勉強後、三園小学校でこれからのやり方を話し合います。

◎9月4日(土)1時30分、於三園小学校

または城址竹林前集合。竹を切って試作。

持ち物：切り出しナイフ、軍手

いずれも連絡先は猪鼻(3933)8269

#### ●トンボを見に行く会

日時：8月10日(火)時間未定

集合：東上線小川町駅

持ち物：弁当、飲み物、帽子、タオル

連絡先：小松(3937)8490

#### ●大沢山を登ろう

日時：8月14日(土)6時10分集合

集合場所：新宿駅AM6:21発快速高尾行きホーム中央付近

持ち物：弁当、飲み物、帽子、雨具など

その他：笹子駅から大沢山(歩程5時間)

連絡先：江戸(3956)1771

#### ●赤塚公園ピオトープ観察会

市民参加でつくった池にくるトンボなどの動植物、湧水の源などの観察(どなたでも)

日時：8月29日(日)午前10時～12時

場所：美術館前

連絡先：坂本(3579)2598

#### ●世話人会と暑気払い

日時：8月29日(日)午後1時30分～

場所：赤塚5丁目集会所

赤塚の自然を話題に飲みます。お茶でもビールでも。会費は飲んだ量に応じてお願いします。